



(史女代知美代永)

# 顔から生れた十億弗

## 奇蹟は實然らず

米國第一流の觀相學者が研究した

### ロックフェラー氏の富と頭の關係

アメリカ最大の富豪の一人なる大石油王ロックフェラー氏の不可思議な人格は氏の巨富を作り出した不思議な頭部の觀相的研究によつて初めて明に解剖發表せられた。

(最近着のアメリカ新聞によつて) 永代美知代

ジョン・デイ・ロックフェラー氏は、米國屈指の大富豪であると同時に、その人格は、久しい間一種の怪物として、世間疑惑の中心に置かれてゐた。一部の社會は氏を愛好するけれども、社會の大多數は「世界最大の小人で、最小の偉人だ」と稱するのであらう。



か？  
 ロックフェラー氏は、無論、直に自分の頭部を觀相されることは拒絶するに相違ない。だが此の石油王の半身像、頭部を最も厳密に測量して製作された像が、モンクレイヤールの圖書館内に建設された。これによつて、生のもその儘の氏を仔細に觀相することができ、乃ち紐育第一流の觀相學者は、この像によつて氏の觀相に従事したのである。そして、次のやうな興味ある報告を發表した――。

**ロ氏の頭部は普通人の頭の平均の大きさより遙に大きい**

「私はロックフェラー氏の半身像に觀相的研究を行ふためモトモンクレイヤールへ出掛けた。氏の像は、ワシントンやナポレオンや、エマールソン。リンコルン。マールク、ツエーンや有名な諷刺家ルーミスなどの半身像に取ら圍まれて立つてゐた。  
 氏の像は、氏の骨相の特異點を漏れ無く現はし、頭部顔面にあるすべての凸凹など、觀相學上に必要な外形を、本物と寸分異はず見せてゐる。私はそれによつ

て、驚嘆すべき氏の内的活動を遺憾なく觀察することができた。  
 第一に、ロックフェラー氏の頭部全體は、普通人の頭部を平均した大きさに比べて著しく大きい。顔の道具も從つて大きい。

耳の長さ  
 鼻の長さ  
 鼻柱 上部から額の生際迄  
 下額部(幅の最も廣い處)  
 上額部(幅の最も狭い處)  
 兩頬全體の幅の廣さ

三吋八分の一  
 二吋八分の三  
 三吋  
 六吋半  
 三吋半  
 十八吋

ロックフェラー氏の鼻はローマ型とギリシヤ型との合の子型である。一目で私は

**フリードリッヒ大王の鼻に何とまあそつくりだらう！**

と感心した。フリードリッヒ大王も、ロックフェラー氏ほどには蓄財の天才ではなかつたけれど、多少それに類似した骨相を持つてゐたものだ。私は沁々とロ氏の骨相を研究するにつれて、初めて氏が一代によく二

十億圓の巨富を積み得た理由を覺つた。同時に、氏がオハイオ州の方に持つてゐる財産に賦せられた租税を巧々拂はないで濟ませ得た譯を、これあるかなと了解した。  
 氏の鼻の底部は、新事業の分野を幾つも考へ出し計畫するに足る、十分の思考力を表してゐる。乃ち氏はこの鼻の底部、潜む力で、他の人がまだ考へつきもしなかつた時分に、既に、石油事業の將來有望であることに眼を着け得たのである。氏の鼻は、哲學者や文學者に見るやうな、薄肉の、智的な鼻ではなくて、肉の厚い、力に充ちた鼻である。戰鬥性、累積力、および長壽の相を現はしてゐる。  
 氏の口は大きい、唇はどちらかと云へば平つたくて、一見薄つぺらである。

**氏の唇は組織性と驚くべき貯藏性と意力の強さを表**

はしてゐる、それと共にむしる頑固に近いほどの不撓不屈の氣性を示してはゐるが、社交とか公正とかいふ方の氣性は殆ど表はれてゐないと云つても可いほど稀

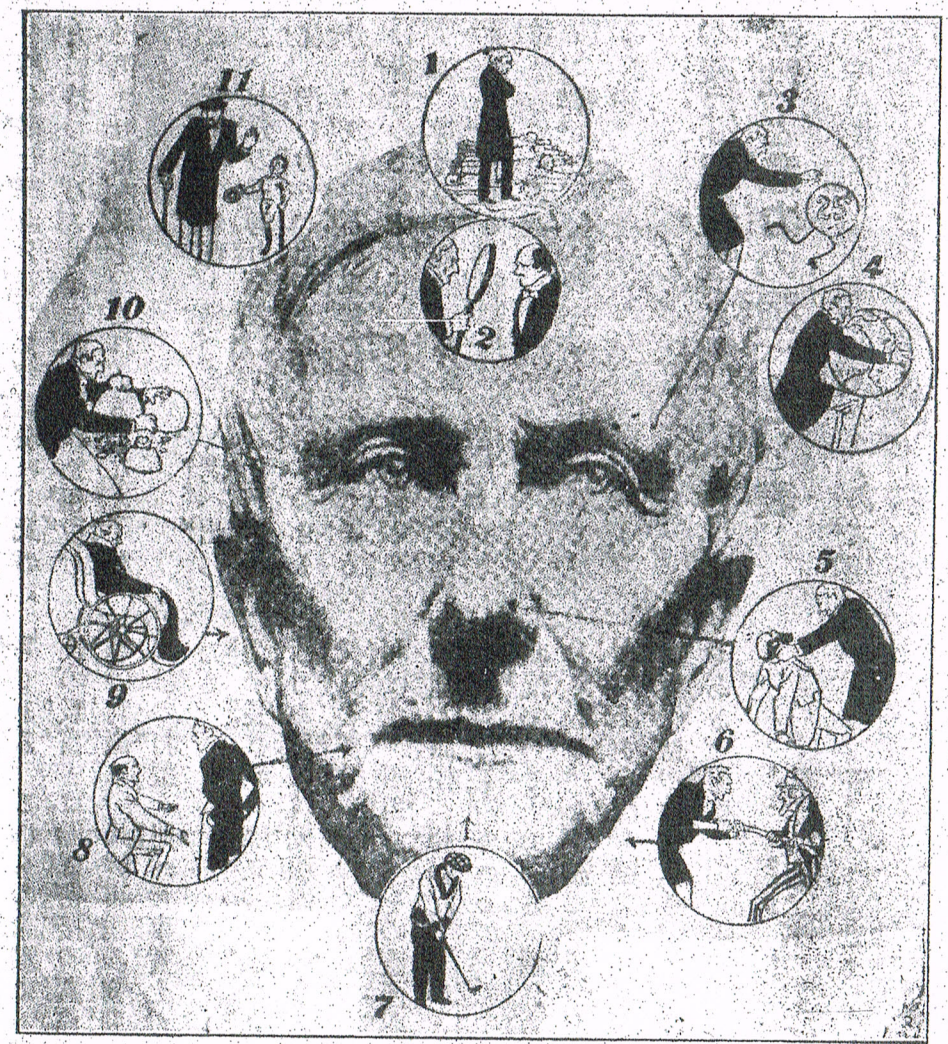
薄である。これらの諸點は非常に注意すべき事柄で、氏の致富とは餘程密接の關係を持つてゐる。つまり是等の特徴は、氏が事業の初期に、多くの競争者にだしぬけの打撃を與へた事實を、今尚ほ明らかに暗示してゐる。  
 頤の長さが又際立つて眼に立つ。これは意志の力、決斷力の殊に執拗頑固、かうと云つたら槓杆でも動かぬ氣質を多分に語つてゐる。  
 顎はまっすぐで、その直徑四吋半に及んでゐる。これは他の諸相に相並んで、ひとしく意志の強いことを表明してゐるのであるが、就中、この顎の形の特性は、我慢強いことである、耐久力、忍耐力に富んでゐることである。この顎こそ氏が七十五歳の高齡でゴルフ遊びの上手な譯を語つてゐる。氏はその全生涯を通じて健康保持のためにも、あらゆる忍耐を仕遂げてゐたのである。更に

**最も興味深きは氏の心身兩面の力強さを示してゐる耳**

の研究である。耳の長さ三吋八分の一、その横幅は一



# 顔と頭の氏口たし表代を格性的實現

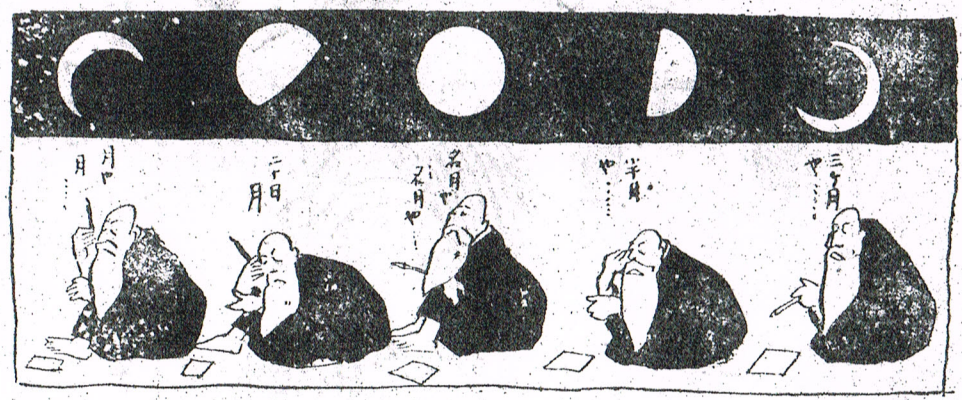


- 1、大意志力
- 2、人を判断する能力
- 3、些事に關する記憶
- 4、遠大なる洞察力
- 5、粗野なる戰鬥力
- 6、頑固・執着・不撓
- 7、肉體的大活動力
- 8、残忍な自我本位
- 9、長壽の相
- 10、黄金の貯蓄性
- 11、同情性は渺し

耳の内輪も外輪も薄くてつ透き徹つてゐる。耳朶の上部は抜目の無い賢い。これを表はし、下耳朶は長命の相と耐久持續の性質とを現はしてゐる。然しその耳の中央部の幅は、優れた消化器を持つてゐる人のやうに大きくはない。それでみると、ロックフェラー氏の生れつきの健康は、さまで完全なものではなかつたのであらう。たゞ驚くべき意志の力や、決斷力や、伶俐な性質でその弱點に打ち克つだけの鍛錬をしたのである。數年前、氏は激しい事務に健康を損つて、神經衰弱にかかり、一時に髪の毛が脱げ落ちたり、記憶力を失つたりしたが、其後氏は又、生活を簡易にし、非常の注意を健康の回復に拂つたため、今では再び昔の元氣な老青年になつてゐる。

大きな脳髓、長くて角形した顔と、はち切れさうな豐頬とに、氏の偉大な

(備 慘 吟 苦)



ロックフェラー氏の富と頭との關係

る原動力のすべてが含まれてゐるのだ。氏の骨相には、どこを探してみても、感情的な、情緒的な分子が現はれてゐない。徒らに肥えふとり、たゞ圓々と肥つてゐる顔。

## かうした顔の持主は 他人の零落や自殺を 冷たく看過する

こののできる人々である。よしんば酷薄でないにしろ、殘忍でないにしろ、とにかく眉一つ動かさないで、他人の不幸を傍觀してゐられる性格である。ロックフェラー氏などは、確に此の型の様なるものである。

氏の前額部には、人を支配し、人に命令する特性が、非常に明白に現れてゐる。これが氏を萬事組織的の人とし、氏一代の事業の根本力となつてゐる。



氏は、組織の感覺が驚くべく發達してゐる。それは兩眼の間の幅が示してゐる。この特性によつて、氏は物事の輪廓と位置とを明瞭に記憶することができた。氏は何事でも、その正當な位置を察知し、自分の必要に應ずる物を自由に採り出してゐることができた。

額の中央部は、氏が明敏な批判力、殊に人間を了解する特性を持つてゐることを證據立ててゐる。これが、前に云つた前額部の、物の正當の位置を知る特性と相俟つて、いくら氏の一生を益したか知れない。つまり氏は、あらゆる人の長所を洞察して、その正當の位置に配置しそれらを手足のごとくに使つて自分の事業を大成することが出来たのである。



風流泥棒

(一) 泥棒が別荘へ忍び込む  
(二) 途端に月が出たので我を忘れて一句やうとうと腰を下す。  
(三) 其内に咲きみだれた秋草の中から蟲の聲々が聞える今度は蟲で一句、と首をひねる。  
(四) どうも名も出ないの別荘の方へ、心は同じ別荘の際居さんは句案をしようとして来るとバツタリ、お前は何か、實は是々、夫は面白いつ併し泥棒でありながら他人の句を盗まぬところが風流だ、と泥棒を賞め初める。

氏はどんな人物に出會つてもその人が本當の事を話してゐるかどうか、その人が自分を助ける何かの力を持つてゐるかどうか、又はその人が自分の爲めに不利益かどうかと云ふやうな事を、初対面の一目で辨別した。そして、その觀察は一度も間違つたことがなかつた。

**眉毛の末の方が根本より廣いのは氏の活動家なる事を語つてゐる。かうした眉毛の持主は、決して思想家ではない、諷刺家でもない、極々實務一點張の人ばかりで務一、一生に幾度も數へるほどしか冗戯や洒落を云つたことはあるまい。又、**

たまに洒落を云つた處で、大して長く人を笑はせることはできないに相違ない。

横額には、財物に對する深い愛着性と貯藏性が發達してゐる。氏が平生から現金を保管して、いざ財政上の急といふ場合に、四割といふやうな高利で貸しつける爲めに用意してゐるのもあらうが、寧ろ氏の骨相は、さうした下力儲の有無に關らず、恰度他の金持がわかりもせぬ古美術品を蒐集して樂むのと同じく、お金を集めて樂む、一種のマイザ一氣質を示してゐる。氏も亦、後頭部に多少の社交性を示してゐるが、それが大抵の場合には、以上に説明した前額部の色んな骨相と兩立しないため、打ち敗かされてあまり發揮されないでゐる。

**慈悲性信仰性なども多少は認められるけれ共極めて稀**

薄である。氏が日曜毎に教會へ出席したり、公共的の

事に盡力するのは、この骨相がさせる仕事である。想像力も相當に發達してゐるが、これは精神の方に使はれるよりは、いゝんな實際的の、事業の上に働いた方が多分であらうと思はれる。氏は詩歌を解する人ではない。

氏の頭部には、遠大なる洞觀力と、緻密な警戒性が並存してゐる。自然美に對する憧憬性は優れてゐるけれども、造形美術に關する鑑賞力はない。たゞ音樂を好む性質だけが骨相に現はれてゐる。實際の話を聞くと、氏はヴァイオリンが一等好きであるといふ。これを要するに、骨相に現れたロックフェラー氏は、意志、蓄積、忍耐、奮闘性の強烈な、現實的性格に、いまだ發揮せられざる極少の精神的性格を具有する人物である。その比例は九對一である。この九分の現實性が、氏をして一代に十億弗の巨富を作らしめたのである。この九分と一分との兼合ひが、時々氏を最小の偉人と見せしめ、時に氏を最大の小人と見せしめる。然し骨相學に現はれた氏は謎にも非ず、鬼にも非ず、近代アメリカの長所と短所とを十二分に代表した『現實味の勝ちすぎた不具者』の一人であると云ふことができる。